

適正なインスリン注射製剤使用の継続的薬学管理のてびき

「適正な継続的薬学管理に必要な視点と行動例」具体例

一般社団法人 日本くすりと糖尿病学会

この「適正な継続的薬学管理に必要な視点と行動例」具体例は、2020年5月に一般社団法人 日本くすりと糖尿病学会適正使用推進委員会が取りまとめて公表した「適正なインスリン注射製剤使用の継続的薬学管理のてびき」の「2. 適正な継続的薬学管理に必要な視点と行動例」をより理解し、具体的に行動してもらうためのおもなポイントをまとめたものである。したがって、詳細にわたる解説は省いたので、成書にて確認してもらいたい。

チェックボックスは、適正な計測的薬学管理に必要な視点と行動の具体例をしめしている。文頭に記されているマークは、「*ハイリスク薬管理の基本」「◎特に導入時」「△特に処方変更時」「□特に継続中（常時）」において着目してほしい事項に付している。

（１）病態とインスリン療法

①治療方針・目標の確認と実践度：主治医の治療方針の確認と患者の治療経緯を把握し、今後の治療目標達成に向けた薬学管理の方針を検討する。

- ◎△ 治療方針に基づき、インスリン製剤の特徴や投与法の意図を理解してもらい、主治医の指示にしたがう必要性や処方されているインスリンの製品名・種類、注射の時間と投与量（単位数）を覚えるよう説明する。
- ◎△ 患者の糖尿病の治療に関する主治医の目標・方針について確認し、その目標を達成するための具体的な進め方（導入手順、速度、期間など）について把握しておく。特に高齢者の場合の治療目標は、個々に異なるので注意が必要である。
- ◎△□ インスリン自己注射の適正（安全・有効）性を評価するには、「（インスリン製剤の種類・量と品質＋正しく稼働する注入器）×（患者の適正な操作・手技）×（日常生活での継続）」の関係を分析する。
- ◎△□ インスリン自己注射に関わる患者の経済面について、患者の負担度を評価する。

②インスリン療法の適応：インスリン療法の適応と意義について確認する。

- ◎△□ 患者のインスリン分泌、インスリン抵抗性に関する基本的な情報、推移（経過）を把握する。
- ◎□ インスリン導入に至るまでの食事療法、運動療法、薬物療法による治療経過、導入後は基本的治療（食事・運動療法など）をおろそかにしていないことを確認する。
- ◎ SMBGなどの血糖値モニタリングについての導入状況を確認する。
- ◎△□ 低血糖の対処法、シックデイ時のインスリン量の調節など、患者自身が主体的に取り